

丸塚中 CS だより

令和7年12月3日

第7号

丸塚中学校運営協議会

令和7年度 コミュニティ・スクール(CS)活動報告

今年度、3回の学校運営協議会が開催されました。今回はその中で熟議された委員の皆さんの御意見を御紹介させていただきます。

第1回 ● 学校運営基本方針について

3年生の廊下の掲示板では受験の意識が高まっていたが、授業参観では柔らかい雰囲気で驚いた。先生方が対話を意識して安心感を作り、より深める授業をしてくれたら嬉しい。(委員)



全学年を通して、リラックスして和やかな雰囲気だった。「対話」というフレーズが飛び交っていて、生徒も積極的に発言していた。(委員)

授業だと、正解を求めてしまうので議論になりがちだが、対話は否定されないことが土台となっているので、授業に生かせるように教員も引き続き研修して行こうと思う。(学校)

● 学校いじめ防止基本方針に関わる取組について

子供のSNSで、曖昧な表現から誤解を生み、ギクシャクすることもある。親もどこまで踏み込んで良いものか迷う。(委員)



学校としてはSNSの指導はどのようにしているか。(委員)

スマホの学校持込は禁止している。SNSでのトラブルも認知していて、そのたびに情報モラルの指導をしている。(学校)

コミュニケーションが対話ではなく、文字になってきている。生徒のSNSの使い方や感覚が進化している代わりに、話し下手になっているようにも思うので、対話がいじめ防止に役立つと良いと思う。(委員)

第2回 地域や家庭における性教育の在り方

性教育は、恥ずかしいとか抵抗があるかもしれないが、大切なことなので、家庭だけでなく学校でも授業の回数など増やしてほしい。(委員)

現時点では、保健体育の授業で全体に指導している。トラブルが起きてしまった生徒に対しては、その親も含めて、サポートセンターの方に指導して貰っている。(学校)

パパ活などで得たお金で生活が変化しても、子供の兆候に気付かない親もいると思う。来年度の教育講演会等で、このテーマにしたらどうか。子供がどういったことを学んでいるかを知ることができるし、親への性教育にもなる。(委員)

参観会や懇談会の時に、子供が受けた授業の映像を流したりすれば、親も子供に指導し易くなるのではないか。(委員)

第3回 いじめ認知とその対応について

以前のような肉体的ないじめではなく、言葉やネットでのいじめが増え、内容も変わってきていて難しい問題だと思う。(委員)



学校側から見て、スクールカーストのようなクラス内格差を感じるか。(委員)



最近は、強い子がいじめっ子、弱い子がいじめられっ子という事ではなく、加害者と被害者が逆転したりする。(学校)

いじめといじりの区別も難しい。同じことをされて受け流せる相手もいるが、親しくない子に同じことをされて嫌な気持ちになることもある。(委員)

いじめと認定した場合、被害者だけでなく加害者にも話を聞く。その時、初めて相手が嫌な思いをしていたことに気付く子もいる。初期段階で認知し、いじめたからいじめっ子というレッテルを張るのではなく、嫌な思いをする子もいるから気を付けようという指導をしている。(学校)

保護者へは、いじめアンケートを通して現状を伝えてはどうか。地域には、子供たちが良くない事をした時に、誰にも何も言われないという無関心な環境を作つてはいけない事を伝えて行きたい。(委員)

こちらは一部を抜粋したものです。詳しい内容が書かれた会議録は、丸塚中学校のホームページで公開しています。また、第4回学校運営協議会は、令和8年2月17日（火）を予定しています。傍聴を希望される方は、事前に学校に御連絡ください。